

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

統合失調症薬物治療ガイドライン 2022

日本神経精神薬理学会/日本臨床精神神経薬理学会/統合失調症薬物治療ガイドラインタスクフォース

[togo_guideline2022.pdf](#)

2022 年 5 月 20 日公開

Minds 掲載 有

Grading Scale of Strength of Evidence

- A 強い真の効果が、推測する効果に近いと確信できる
- B 中程度真の効果が、推測する効果に近いと考えられるが、結果的に異なる可能性が残る
- C 弱い真の効果が、推測する効果に近いと考えられるが、結果的に異なる可能性がある
- D とても弱い推測する効果は大変不明瞭で、真の効果とかけ離れることがしばしばある

Grading Scale of Strength of Recommendation

1=強く推奨

2=弱く推奨

■1 芍薬甘草湯

疾患:

抗精神病薬による性機能障害

引用など:

- 1) Zheng W, Cai DB, Li HY, et al. Adjunctive peony-glycyrrhiza decoction for antipsychotic-induced hyperprolactinaemia: a meta-analysis of randomised controlled trials. *General Psychiatry* 2018; 31: e100003.
- 2) 牧綾子, 久田孝光, 香取征典. ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒(医療用)の副作用発現頻度調査. *診断と治療* 2016; 104: 947-58.
- 3) 萬谷直樹, 岡洋志, 佐橋佳郎, ほか. 甘草の使用量と偽アルドステロン症の頻度に関する文献的調査. *日本東洋医学雑誌* 2015; 66: 197-202.

有効性に関する記載ないしその要約:

『CQ4-5 抗精神病薬による性機能障害に推奨される治療法および予防法は何か?』において以下の記載がある。

『併用療法についてはアリピプラゾール少量の併用の RCT、芍薬甘草湯の併用の RCT、ジルデナフィルの併用の RCT が報告されているがいずれも小規模の研究であり、性機能障害の改善と精神症状の改善について信頼するに足る一貫した結果が得られていないため、併用は推奨されない』

副作用に関する記載ないしその要約:

『芍薬甘草湯は主な副作用として低カリウム血症が 0.2%に生じ、甘草は偽アルドステロン症が生じやすい』